

初年次教育の効果と課題 (2) : スポーツ科学科「スタートアッププログラム」 の事例から

春日 芳美、田中 博史、只隅 伸也、佐藤真太郎

Outcome and Additional Challenge of First-year Experience (2) : Practical Case of Department of Sports Science

Yoshimi KASUGA, Hiroshi TANAKA,
Shinya TADAKUMA, Shintaro SATO

1. はじめに

本学スポーツ・健康科学部スポーツ科学科（以下「本学科」とする）では、2010年度より新生の学校生活のスタートをより円滑なものとするを主目的として、入学式後の2日間（当初は1日のみ）をかけて「スタートアッププログラム（以下「本プログラム」とする）」を行ってきた。本稿では、初年次教育の導入としての本プログラムの概要を示すとともに、2015年度に行われた本プログラムの成果と課題を、プログラム終了後に行った学生による評価アンケートの内容をもとに明らかにする。

前号紀要では、本学科における初年次教育の取り組みの一環として「フレッシュマンセミナーA/B」の事例を報告した（春日ほか、2014）。本プログラムは、フレッシュマンセミナーと同様に本学科の初年次教育において非常に重要な意味合いをもっている。本学においては、学部・学科ごとに初年次教育への様々な取り組みが行われているにも関わらず、その取り組みの成果と課題が学内で共有されていないのは残念なことである。今後より効果的なプログラムを検討し、「教育の大東」という目的を達成していくためにも全学的な知識の共有が必要であると考えられる。

2. 初年次教育に関する研究動向とスポーツ科学科「スタートアッププログラム」について

2-1. 初年次教育における入学時オリエンテーションの重要性

大学教育において初年次教育に対する関心は年々高まっている¹⁾。本学科においても、学科設立当初の2005年より、初年次教育の中心的な役割を担う科目として「基礎演習」を1年次必修科目として置いていた。しかし、科目内容の改善を目指して新たに「フレッシュマンセミナーA/B」を1年次必修科目とし、昨年度その効果と課題を報告した（春日ほか、2014）。

このような年間を通じた科目の他に、入学時オリエンテーションや「スタートアッププログラム」、「フレッシュマン・キャンプ」等と呼ばれる比較的短期間の初年次における活動を行っている大学は少なくない²⁾。通年の科目がリメディアル教育やマナー講習、学生の学習に取り組む姿勢を形成することを目的とするのに対して、短期間に行われる「フレッシュマン・キャンプ」では「友人作り」や上級生・教職員との親睦を図り、その後の大学生活をより充実したものとすることを目的に行われる傾向がある。大学における友人関係の充実が学生満足度と強い相関関係をもつことはすでに指摘されている³⁾。学生の大学入学時に大学側から人間関係構築のきっかけを提供する必要がある理由として、高校と大学の授業形態の違いが挙げられる。

「高校までの友だちづくりと大学での友達づくりとは、チャンスも関係を構築するための時間もかなり異なっている。高校まではクラス単位での学校生活となるため、クラスの中で十分な時間を使って友だちとの関係を深めることができるが、大学では時間的にも空間的にも自由度が高まるぶん、友だちとの出会いの場も関係を深める時間も限定的となってくる。」（谷田川、2013）

進学率の上昇とともに多様な学生が大学に入学するようになり、「大学生活を能動的に送れず、自己の目的を達成できないまま学修を終えてしまったり、不登校や、不本意ながら休・退学をする学生が増えるという問題も生じている」（文部科学省、2000）との指摘がすでになされて久しいが、学生満足度を高めより良い学科運営を行うためにも、初年次における学生間の友人関係構築のための機会提供は非常に重要であるといえる。

2-2. 目的と運営方針

本プログラムでは、新入生間の交流、新入生と上級生間の交流、そして新入生と教職員との交流を意図した内容が組まれている。準備段階から複数の教員が関わり、プログラム当日も参加可能な教職員全員が参加する。これは、新入生に対して本学科の教職員全員が学生指導に熱意をもっていることを示す場としても重要な意味をもっているといえる。

現在の大学教育においては、「教員自身がまず、正課教育はもちろんのこと、正課外教育も含めた大学生活全般の中で、学生の人間的な成長を図り、自立を促すため適切な指導を行っていくことが教員の基本的責任であることを明確に認識する必要がある。」(文部科学省、2000)との指摘がなされるが、在学生に対してもこの姿勢を積極的に示していく必要があると考えられる。

また、「『大学の先生』という存在は、授業をする人、成績をつける人、といった距離のある存在と思われがちであるが、現代の大学生にとって、先生との交流は大学生の大学生活を豊かにする重要なファクターとなっているようである。」(谷田川、2012、p22)との指摘もあるように、より良い学科運営を目指す上では学生と教員が積極的に関わる機会の提供も重要である。このように、本プログラムは単に新入生の「友達作り」の場というだけではなく、新入生と教職員が直接的に関わり本学科の教育方針を明示する場としての役割も果たしていると言える。

2-3. 2015年度「スタートアッププログラム」の内容

本プログラムは、入学式と新入生ガイダンス後の2日間を利用して行われた(資料1)。以下は、それぞれのプログラム内容の概要である。

・朝食会

両日とも朝8時30分から学生協ビュッフェに集合し、大学生協との協力による「朝ごはんプロジェクト」⁴⁾により学生は一食200円で食事の提供を受けている。座席の指定はせず、自由としている(座席は満席である)。なおこれまでは、電車の遅延等がない限り遅刻者や欠席者はほとんど出ていない。

・大学の沿革説明

自身の所属する大学についての知識を深めることは、学生の帰属意識を高めるために重要である。大学と学部・学科の沿革を教員から説明する。

・上級生による校歌指導

本プログラムでは、スポーツ科学科の上級生による効果指導を行う⁵⁾。校歌は、毎回のフレッシュマンセミナーで授業開始時に斉唱するため、繰り返し練習し覚えらえるようにする。

・英語プレイスメントテスト

必修である英語のクラス分けのためにプレイスメントテストを行う。この結果はプログラム2日目の最後に学生に伝え、科目登録の番号を記録させる。

・昼食会

生協食堂の弁当(1食500円)を2日分用意し、クラスごとに教室を指定して昼食会を行う。なお、弁当の注文、受け取りのチェック及び集金は全て教員が行っている。

・在学生講演

2, 3, 4年生からそれぞれ一人ずつが自身の大学生活について20分間の講演を行う。講演を担当する学生については、事前に教員間でそれぞれの事例やバランスを考慮して推薦している。

・アイスブレイキングゲーム

学科指定ジャージの採寸と並行して、アイスブレイキングゲームを行う。アイスブレイキングとは、初対面の者同士の緊張を解きほぐす(氷った場の雰囲気溶かす)ことを目的として行われる活動のことである。今回は、学科ジャージの採寸と並行して、お互いの名前や趣味等を聞き、肯定的な相槌をうつ(A「名前は何ですか」B「〇〇です」A「素敵(かっこいい、かわいい)ですね」……というように続ける)ことで交流を深めるという活動を行った。

・学科ジャージ採寸

スポーツ科学科では、学科独自のジャージを用意している。それぞれのジャージには大学マークと氏名がプリントされ、学生の大学・学部にも所属しているというアイデンティティを高める役割も果たしている。

・9号館、10号館ツアー

スポーツ科学科の学生が使用することの多い9号館、10号館を案内し、ロッカーの使用方の説明などを行う。

・スチューデントポリシー説明

スポーツ科学科には、アドミッションポリシーとディプロマポリシーをもとにした「スチューデントポリシー」があり、その内容を説明する。なお、この内容はフレッシュマンセミナーにおいて校歌斉唱とともに毎回斉唱する。

・スポーツコミュニケーション(バレーボール)

スポーツを通して新入生、在學生、教職員の交流をはかるためバレーボール大会を企画した。なお、企画運営は本学科の教職志望の学生が中心となって行っている。今年度は、施設確保ができず全体でプログラムを行うことが困難だったため、A/BクラスとC/Dクラスの半分ずつで「大学生になるためのハンドブック解説」と並行して行った。

・大学生になるためのハンドブック解説

2014年度まで新入生に対して配布されていた「大学生になるためのハンドブック」を活用し、学部事務室と学科事務室の違い等大学生として必要な知識を解説した。なお、2015度からは新入生に対しての配布が行われなくなったため、入試広報課より前年度の残部の提供を受けた。この冊子は新入生に大学について説明する上で非常に優れた内容となっているため、今後も継続的に使用できるよう改訂や新版の作成も検討していきたいと考えている。

3. アンケート結果の分析

3-1. 自由記述によるアンケートの結果分析

全プログラム終了後に行った「スタートアッププログラム2015に関するアンケート」⁶⁾では、「スポーツ科学科では、なぜ今回の「スタートアッププログラム」を実施していると思いますか。その理由と考えらえることを自由に書いてください」という質問を行った(資料2)。これは、本プログラムを通して新入生が何を得たのか、教員の意図をどのようにくみ取ったのかということ

知るための質問である。

回答の一部を抜粋すると、「新生が不安なく大学生活をはじめられるように」、「充実した大学生活を送るため」、「大学に入る上でちゃんとした目的をわからせるため」といった大学生活をスムーズにスタートさせることに関連したものが目立った。

また、「高校生から大学生に切り替えるため」、「スポーツ科の学生が今後どのような姿勢で授業にのぞめばいいのかなどを理解するため」といった、プログラムの内容から受けた印象をもとに回答した学生もいた。

これらの回答から、本プログラムの目的はおおむね理解されていたといえるだろう。

3-2. プログラムへの期待及び満足度

プログラムに対して期待していたことがあったか、という質問に対しては、期待していたことがある99名、期待してはいない13名であった(表1)。

期待していたと回答した理由としては、「友達がたくさんできそうだったから」という回答が最も多く、「知り合いが全くおらず不安で友達をつくりたかったから」、「新天地での新たなスタートに不安が積もる反面、人との交流や新たな友達をつくることを期待していた」等、半数以上が友人に関連する回答をしていた。

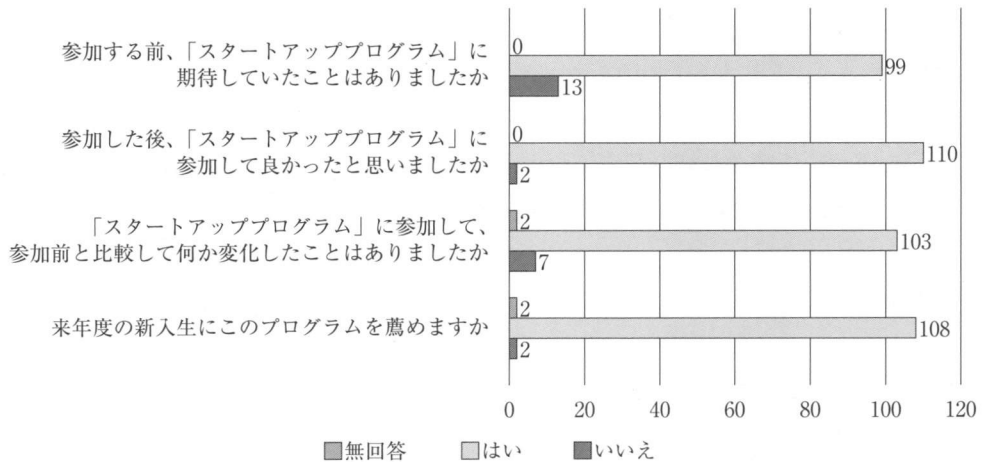
また、「いろいろ教わりたかったから」、「大東文化大学について知らないことを教えてもらえると思った」、「大学生活がどんなものか知りたかった」といった、大学という新しい環境に対する不安を解消するために知識を得たいと考えていた学生が複数いた。そして、スポーツコミュニケーション(バレーボール大会)を楽しみにしていたという学生も多かった。

一方、期待していたことがなかったという回答の理由としては、「何がおきるのかわからなかった」「ただのガイダンスだと思っていた」というようにプログラムの内容を理解していなかったことが挙げられた。また、スポーツ科学科では入学以前から新生が部活動に参加していることから、「部活つながりのグループがすでにできていて、人見知りということもあり少し怖かったから」といった意見があった。その他に、「友達がいなかったので、仲良くなれるか心配だった」、「人見知りであまり人と絡みたくないと思っていたから」といった友人関係の構築に関する不安や、「資料に目を通せば十分だと思っていたから」、「正直めんどくさいと思っていた」といった意見、さらには、「バレーボールが上手な人の中で浮いてしまうのではないかと思った」といった意見がみられた。これらの回答内容からもわかるように、プログラムが行われること自体に対するネガティブな意見はごく少数であった。

質問3の、参加した後、「スタートアッププログラム」に参加して、良かったと思いましたがという質問に対しては、110名がよかった、2名がよくなかったと回答した。

参加してよかったという回答としては、ほとんどの学生が「友達がたくさんできた」「思っていたよりたくさんの人と仲良くなれた」という点と、スポーツコミュニケーションが楽しかったという点を挙げていた。また、質問2で複数の回答が得られた大学を知りたいという点に対して、「ガ

表1 質問2.3.5.6 回答



イダンスはととてもためになった」、「大学での生活がどんな感じか知ることができた」というような回答が得られ、学生が求めていた知識の提供ができたと考えられる。そして、「スポーツ科への理解も深まったし、春休みでだらけていた部分もきちんと切り替えることができた」といった意見や、「大学生としての心構えができたから」、「先生方や先輩方からの貴重なお話で、自分自身これからどうしなくてはいけないか考えさせられた」、「大学生生活一日一日を無駄にせず大切にしていこうと思えたから」といった良い大学生活のスタートを切れたことが挙げられた。

一方、良くなかったという意見としては、「朝食と昼食の料金でおさいふの中のお金がなくなったから」と金銭的負担を指摘する回答と、「友達ができなかった」という2点が挙げられた。食事代金に関しては、今後昼食を各自で用意する方法など学生の金銭的負担を軽減する方策も検討したい。また、友達ができなかったという意見については、これ以上の教員側からの支援が必要であるのかという点を含めより効果的なプログラム内容を検討していきたい。

3-3. 最も印象に残ったプログラム内容

最も印象に残ったプログラムでは、スポーツコミュニケーションが最も多く挙げられた(表2)。理由としては、「体を動かしてみんなで楽しむことで距離が縮まった」、「スポーツはなんでも好きなので、スポーツ好きが集まってやるのはとても楽しく、今まで以上に仲が深まったから」、「他のクラスと混合で男女関係なく楽しくできたから」というようにスポーツを通じた交流が多くの新生入生に受け入れられたと考えられる。また、前半のスポーツコミュニケーションでは教員チームが優勝したが、この点を挙げる者も複数みられた。「先生たちの優勝……(笑)」、「先生方の、楽しんでいるけど、ふざけていないのが、さすがスポ科の先生だと思ったから」、「教員に負けて本当に悔しかった。もう一回やりたい」等、教職員が本気で取り組む姿が新生入生に良い影響を与えたと考えられる。

次点として、アイスブレイキングゲームが印象に残ったと答えた者が多かった。理由としては、

「友達を増やすいいきっかけになったから」、「初対面の人とでも仲良くなることができ、コミュニケーションを取ることが楽しかったから」、「人見知りだけど、いろんな人が話しかけてくれたから」といった回答がみられた。また、「部活以外の友達ができた」という回答もあり、部活動に所属していない学生が部活動グループに対して話しかけにくいと感じる反面、部活動に所属する学生も所属する部以外の人間関係を構築することが難しい状況があることが明らかになった。その他には、「大学に入ると、何でも自分でやると思っていたので、このような友達作りの企画をしてくれたので少し安心した」といった意見もあり、学生の交流のきっかけを提供することが新入生の不安解消に役立つと考えられる。

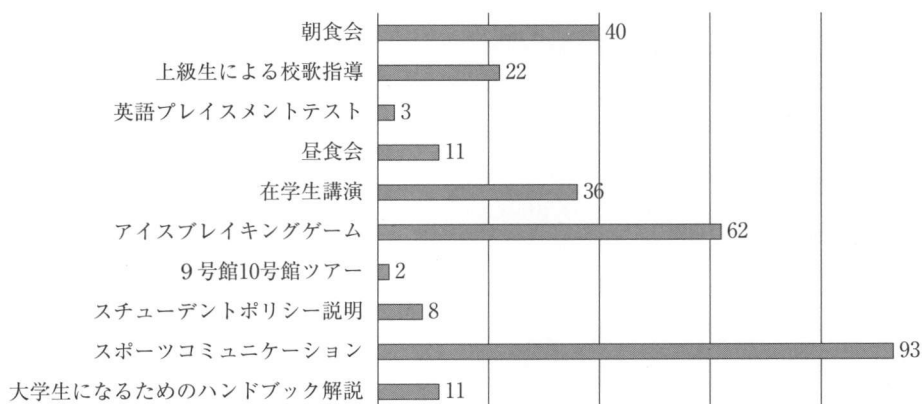
これらに次いで多く挙げられたのが、朝食会である。朝早くから大学に集まり食事をするというプログラムに対して、予想以上に好意的な意見が挙がった。「みんなで食事をともにしていろいろな話で盛り上がったから」、「おいしかったし、朝から友人と会えるのがよかった」、「いつもは寝ている時間に起きて大学へ足を運ぶことが結構楽しかったたくさん話すことができたから」というように、朝食会で新しい友人関係を築いた新入生も多かったようである。また、「朝食がおいしく、200円は安い!」という意見があり、一部の学生はプログラム終了後も朝の学バスが混む時間を避けて通学し、朝ごはんプロジェクトを利用して朝食を生協食堂でとってから授業を受講している。こういった生活習慣を身に着けることで朝食を抜いたり授業に遅刻したりすることが減少し、より充実した大学生活を送ることができるようではないかと考えられる。朝食会については、「スポーツをやっていた人が多いからか、時間通りに進みスムーズに行っていた」という意見もあり、学生の満足度を高めるためには参加者の協力によるスムーズなプログラム運営も重要であると考えられる。

その他としては、上級生による校歌指導も多くの学生の印象に残ったようである。「この企画がなければ校歌など覚えることがなかったと思うから良かった」、「大学生でも、礼や校歌や母校に誇りをもったり、決してゆるくない取組みにこれからは楽しみになった」、「正直、大学にもなって校歌指導なんてするんだと思ってびっくりした」といった意見の他、「先輩たちが引っ張って歌ってくれたから」と上級生からの指導を挙げた者もいた。

在学生講演も、新生活をイメージする上で役に立ったようである。「先輩たちの日常生活や入っからのことがよくわかった」、「先輩方の生の声はとても参考になり、それだけでなくやる気ができた」という意見の他、「あんな目標をもった上級生になりたい」、「在学生のプレゼンを聞いて、自分と2つ、3つしか年が変わらないのに、こんなにもいろいろな考え方や経験をもっていることがとても刺激になった」というように、新生活のスタートにあたってやる気が増した者もいた。

また、昼食会も新入生間の交流の場として十分機能したようである。「まだ話したことのない人と周りにも知り合いのいない中で関わりあえた」、「バレーのチームでごはんを食べて、自己紹介をすることで話が盛り上がって楽しくなった」といった意見があった。そして、大学生になるためのハンドブック解説では、「当たり前のことを当たり前やる気構えができた。自制心こそがかかせないと思った」、「先生のひとつひとつの言葉がためになり、自分もそのような人間になり、社会に

表2 最も印象に残ったプログラム内容



貢献していきたいと思った」といった回答がみられた。

以上のようにそれぞれのプログラム内容への意見から、2日間という限られた時間の中で効率的かつ効果的にプログラムを組み実行できたと評価できるだろう。

3-4. プログラム参加後の変化について

「スタートアッププログラム」に参加して、参加前と比較して何か変化したことがあったかという質問に対しては、103名が変化があった、7名が変化がなかった、2名が無回答であった(表1)。

変化があったとする回答では「友達ができた」というものが最も多く、2日間のプログラムを通して新しい友人関係を構築することができたようである。「最初は慣れない環境のため、集団の場にいるだけで多少の緊張があったが、参加後はなくなった」という回答もみられた。

その他には、「大学生と高校生は違うということを改めて実感した」、「大学と高校の違いを実感して生活リズムが変わりました」というように、高校と大学の違いを感じた新生人も多かった。この点については、本プログラム内で「高校4年生ではなく大学1年生になろう」といった指導をしていることも影響していると考えられる。

また、「自分が何をしに大東文化大学に来たのか、改めて明確にできた」、「これからの大学生活が楽しみになった」、「大学での4年間を有意義に過ごすためのヒントをたくさん得ることができました」、「スポ科生としての自覚が芽生えた」というように、新生活のスタートにあたって目標や課題を明確にすることができたようである。以上のように、プログラム参加後の変化があったとする回答は、ほとんどがポジティブなものであった。

3-5. スタートアッププログラムを次年度新生に薦めるか

来年度の学科新生に「スタートアッププログラム」を薦めたいと思いますかという質問では、108名が薦めたい、2名が薦めたくない、2名が未回答であった(表1)。

薦めたいとした回答としては、「この企画がなければ友人関係を築くこともできないし、これか

らの大学の生活で困ると思う」、「自分のように人付き合いが得意でない人には、付き合いをつくる場をせっかくだとつくっていただいたと思うので特に薦めたいと思う」というように、友人関係構築のきっかけになったことを評価するものが複数みられた。

また、「入ってきたばかりで不安がたくさんあると思うから、スタートアッププログラムに参加すればその不安が少しでもなくなるから」、「一日一日は長いけどスタートアッププログラムなしにいきなり大学生活を行うのは大変だと思うから」、「なんとなく大学生活を過ごしてしまわないためにも、心構えとして必要だと思った」というように、大学生活を始めるにあたって有用な知識を得たり大学の雰囲気慣れたりすることが良いスタートを切る上で重要であるという考えをもつものも多かった。

その他には、「自分を見つめなおしたり、いろいろな人とコミュニケーションがとれる」というものや、新たに一人暮らしを始めた者からは「(入学式及びガイダンス後の2日間)一人で家にいるより何倍もいい」といった意見が挙げられた。

なお、薦めたくないとする2名のうち1名の意見は、「お金がなくなるから(お昼が高い)」というものだった(もう1名については理由未記入)。

4. おわりに

以上のように、2015年度に行われた「スタートアッププログラム」の成果と課題について検討を行った。その結果、新入生間の交流、新入生と在學生・教職員との交流を通してより良い大学生活のスタートを切るきっかけを提供するという本プログラムの目的は、新入生にも理解され十分に達成されていると考えられる。「大学という場においては、勉学も重要であるが、それ以前に『大学』という場に『着地』できているかどうかも重要である。『着地』ができていないと欠席率の上昇や学習の意欲の低下、ひいては中退予備軍となってしまうこともある」(谷田川、2012、p23)との指摘にみられるように、友人関係構築のきっかけ作りや大学とはどのような場なのかといった知識を新入生に対して提供していくことが必要であろう。

また、目的と運営方針の項でも指摘したように、重要なのは学科全体の教職員が積極的にプログラムに関わることでありと考えられる。一部の教職員のみ負担が集中することは避けるべきであるし、プログラムの効果を高め教員の学生指導に対する熱意を伝えるという意味でも学部・学科全体で取り組むことが望ましいであろう。

今後の課題としては、朝食の満足度が高かったことに対して昼食の食事代金が高いという指摘があったため、次年度以降は昼食の費用の一部を大学で負担することや弁当の内容を変えること等を含めて検討したい。また、この2日間で新たな友人関係を構築することができなかった新入生がいたことが明らかになったが、今後さらに教員側から友人関係を構築するための支援策を提供する必要があるかどうかという点を含めて検討が必要であると考えられる。また、自由記述欄において「スタートの時間はきっちりしているのに終わりの時間が予定を超えるのはつらい」という指摘が

あり、次年度以降はさらに効率的なプログラム運営ができるよう工夫を行っていきたいと考えている。

以上のように、本稿で報告したスタートアッププログラム及び前年度に報告したフレッシュマンセミナーを中心として、より効果的な初年次教育プログラムを構築するための取り組みを今後も継続的に行っていく予定である。

注

- 1) NII 学術情報ナビゲータ CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) で、「初年次教育」を検索すると 2003 年以降の論文・雑誌・図書データとして 2014 年 9 月時点で 857 件だった記事数が、2015 年 9 月現在では 994 件と大幅に増加している。
- 2) 文部省による学生生活の充実に関する報告においても、「教員や学生同士の出会いの場として合宿を実施したり、様々な学部・学科の教員や学生とのふれあいの場を提供するなど様々な工夫を行うことにより、学生がスムーズに大学生活に踏み出せるための条件を整える必要がある。」(文部科学省、2000)との指摘がなされている。
- 3) 「大学内に『話をしたり一緒に遊んだりする友だち』が複数存在することは、大学生生活を満足なものにする要因となっている。……大学内での友人関係が盤石であるということは、大学に満足し、豊かな学生生活を送るといった点において重要なことであるように思われる」(谷田川、2012、p23)
- 4) 東松山キャンパス朝ごはんプロジェクトは、食育支援のために大学が大学生協とタイアップして 2010 年 4 月にスタートした。300 円の定食(「ごはん」+「味噌汁」+「主菜」+「副菜」のセット)を、大学が補助することにより 200 円で提供している(大学 Web ページより)。
- 5) 2012 年度の校歌指導は、全学応援団に依頼した。
- 6) 実施日時 2015 年 4 月 4 日(土) 16 時、回答者数 112 名。回答用紙は無記名とし、個人が特定されないよう工夫して実施した。

参考文献

- 春日芳美、田中博史、只隈伸也、佐藤真太郎(2015) 初年次教育の効果と課題：スポーツ科学科「フレッシュマンセミナー」の事例から、大東文化大学紀要〈社会科学〉大東文化大学(53) pp.21-34
- 文部科学省(2000) 大学における方策について(報告)－学生の立場に立った大学づくりを目指して－、文部科学省 HP、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm (参照日 2015 年 9 月 4 日)
- 谷田川ルミ(2013) 大学への適応における友人関係の重要性－高校までとは異なる人間関係をどのように構築するか－、ベネッセ教育総合研究所 <http://berd.benesse.jp/berd/focus/4-koudai/activity2/> (参照日 2015 年 9 月 4 日)
- 谷田川ルミ(2012) 現代の大学生の人間関係－「先生」「友だち」の存在が大学への着地を促す－、第二回大学生の学習・生活実態調査報告書、ベネッセ教育総合研究所、pp.22-23.

(2015 年 9 月 29 日受理)

資料1 スタートアッププログラム日程表

4月3日		4月4日	
時間	内容	時間	内容
8:45	朝食会	8:45	朝食会
9:00			
9:10			
9:20			
9:30	挨拶	9:30	挨拶 校歌斉唱 スチューデントポリシー
9:40			
9:50			
10:00			
10:10	大学の沿革	10:10	
10:20			
10:30			
10:40			
10:50	休憩 (10分)	10:20	休憩・移動
11:00	プレイズメントテスト	10:30	スポーツコミュニケーション or 大学生になるためのハンドブック 解説
11:10			
11:20			
11:30			
11:40			
11:50			
12:00		昼休み	
12:10	ワンコイン昼食会	12:10	ワンコイン昼食会
12:20			
12:30			
12:40			
12:50			
13:00	2年生代表講演	13:00	スポーツコミュニケーション or 大学生になるためのハンドブック 解説
13:10			
13:20	3年生代表講演		
13:30			
13:40	4年生代表講演		
13:50	休憩 (10分)	13:50	解説
14:00	ジャージ採寸 アイスブレイキングゲーム	14:00	休憩・移動
14:10			
14:20			
14:30		履修相談・時間割作成	
14:40			
14:50			
15:00	個人ロッカー説明	15:00	次回の確認 挨拶解散
15:10	9号館、10号館ツアー	15:10	
15:20			
15:30			
15:40			
15:50			
16:00	翌日の確認、挨拶解散	16:00	

資料2 スタートアッププログラム アンケート用紙

スタートアッププログラム2015に関するアンケート

このアンケートは、2015年4月3日、4日の2日間で行われたスポーツ科学科スタートアッププログラムに関するものです。アンケートは、本授業を検証し、今後に向けた改善のヒントを得ることを目的として行われます。匿名方式で実施するので、個人が特定されることはありません。率直な感想や意見を回答してください。ご協力よろしく願います。

1. スポーツ科学科では、なぜ今回の「スタートアッププログラム」を実施していると思いますか。その理由と考えられることを自由に書いてください。

2. 参加する前、「スタートアッププログラム」に期待していたことはありましたか。

はい ・ いいえ (いずれかに ○)

その内容や理由について自由に書いてください(「はい」、「いいえ」のいずれも)。

3. 参加した後、「スタートアッププログラム」に参加して、良かったと思いましたが。

はい ・ いいえ (いずれかに ○)

その内容や理由について自由に書いてください(「はい」、「いいえ」のいずれも)。

4. 2日間で行われた内容の中で、最も印象に残っているものは何ですか。○をつけてください。(最大3つまで)

- ① 朝食会 ② 大学の沿革説明 ③ 校歌指導 ④ 英語プレゼンメントテスト ⑤ 1coin 昼食会
- ⑥ 在学生による講演 ⑦ アイスブレイキングゲーム ⑧ 9号館、10号館ツアー
- ⑨ スチューデントポリシー説明 ⑩ 警察官講話 ⑪ スポーツコミュニケーション ⑫ その他

その理由を教えてください。

番号	印象に残っている理由

5. 「スタートアッププログラム」に参加して、参加前と比較して何か変化しましたこととはありませんか。

はい ・ いいえ (いずれかに ○)

「はい」と答えた人はその内容について自由に書いてください。

6. 来年度の学科新入生に「スタートアッププログラム」を薦めたいと思えますか。

はい ・ いいえ (いずれかに ○)

その理由について自由に書いてください(「はい」、「いいえ」のいずれも)。

7. その他、「スタートアッププログラム」について書きたいことがあれば自由に書いてください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。